

令和4年度東京都の献血者確保対策

血液法に基づき、献血について都民の理解を深めること、日赤による献血受け入れが円滑に実施されるよう支援することを目的に、以下のとおり実施した。

1 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた対応

新型コロナウイルス感染症が流行し、企業や学校での献血協力が得られにくい状況が継続しており、以下の対策を行った。

(1) 都民への献血協力呼びかけ

- ・知事から都民へ献血協力呼びかけ（1月定例記者会見にて）
- ・知事からの献血協力メッセージの発出（3月予定）

【周知内容】

- ・献血者減少を受けた呼びかけ
- ・事前予約や平日の献血協力依頼

(2) その他

- ・区市町村への協力依頼（通知文発出（1月））
→庁舎や公園等で臨時献血実施（18自治体）、ツイッターやホームページ等による広報実施（11自治体）、その他感染対策の強化や献血実施場所の提供等

2 献血キャンペーン

特に献血者が減少する季節にあわせ、献血者確保のためのキャンペーンを展開

(1) 「愛の血液助け合い運動」（7月：全国展開）の実施

- ①ポスター作成
都内全高校、専門学校、短大、大学、美術館等施設、各区市町村へ掲出依頼
- ②福祉保健局広報誌、都ホームページへの啓発記事掲載、福祉保健局Twitterによる情報発信
- ③TBS ラジオによる広報
- ④新宿駅西口地下広場・4号街路デジタルサイネージへの静止画掲出
- ⑤都庁内での出張献血実施（3日間 158人）
- ⑥ワイドコロ協定締結企業等との連携
- ⑦献血手順・血液製剤製造所等の解説動画活用

(2) 「はたちの献血キャンペーン」（1月・2月：全国展開）の実施

- ①ポスターの作成
都内全高校、専門学校、短大、大学、美術館等施設、各区市町村へ掲出依頼

- ②都広報誌、福祉保健局広報誌、都ホームページへの啓発記事掲載、福祉保健局 Twitter による情報発信
- ③リーフレットの作成
通年配布可能な内容にして作成し、以下にて周知
 - ・成人式、区市町村が実施する若年層対象の行事等で配布
 - ・区市町村が設置する成人式特設ホームページ内でのデータ掲載
 - ・都ホームページにPDFデータを掲載
- ④東京MX テレビ・TBS ラジオによる広報
- ⑤都庁内での出張献血実施（3日間 152人）

（3）春季キャンペーン（3月：都独自）の実施

- ①ワイドコラボ協定締結企業等との連携
- ②動画コンテンツを活用し、ポスターとともに以下にて周知（すべて3月13日から7日間）
 - ・トレインチャンネルCMの放映
JR 山手線、中央線快速、京浜東北線・根岸線、京葉線、埼京線、横浜線、南武線、常磐線各駅停車、中央総武線各駅停車、横須賀線・総武線快速、ゆりかもめで放映
 - ・電車中吊り広告
JR 山手線、横須賀線・総武線快速、中央線群、京浜東北線群、京王線・井の頭線、都営地下鉄全線
 - ・屋外街頭ビジョンCM放映
近隣に献血ルームがあり、若者が多い、繁華街の駅付近のビジョン7か所で放映
（7か所：新宿・渋谷（2か所）・池袋・有楽町・秋葉原・立川）
- ③福祉保健局広報誌、都ホームページへの啓発記事掲載、東京都LINE 公式アカウント「東京都」での通知配信、福祉保健局 Twitter による情報発信
- ④東京MX テレビ・TBS ラジオによる広報
- ⑤新宿駅西口地下広場・4号街路デジタルサイネージへの動画・画像掲出

3 若年層への働きかけ（上記2以外）

（1）日本赤十字社東京都支部が実施する広報費への補助

はたちの献血キャンペーン特設WEBサイトの設置等経費の補助

（2）学校を通じた普及啓発

- ①都立学校長会において、献血セミナーの実施について協力依頼
- ②献血セミナー・学校献血への協力依頼文書を、都内全高校、専門学校、短大、大学に送付

4 複数回献血の推進

日本赤十字社東京都支部が実施する複数回献血推進の事業費への補助

「複数回献血クラブ（ラブラッド）」の事業運営費を一部補助

5 献血推進協議会の実施

都から区市町村へ、献血推進協議会の活用や、地域活動団体と連携した献血推進活動の実施等、献血推進にかかる取組への協力を呼びかける文書を発出した。

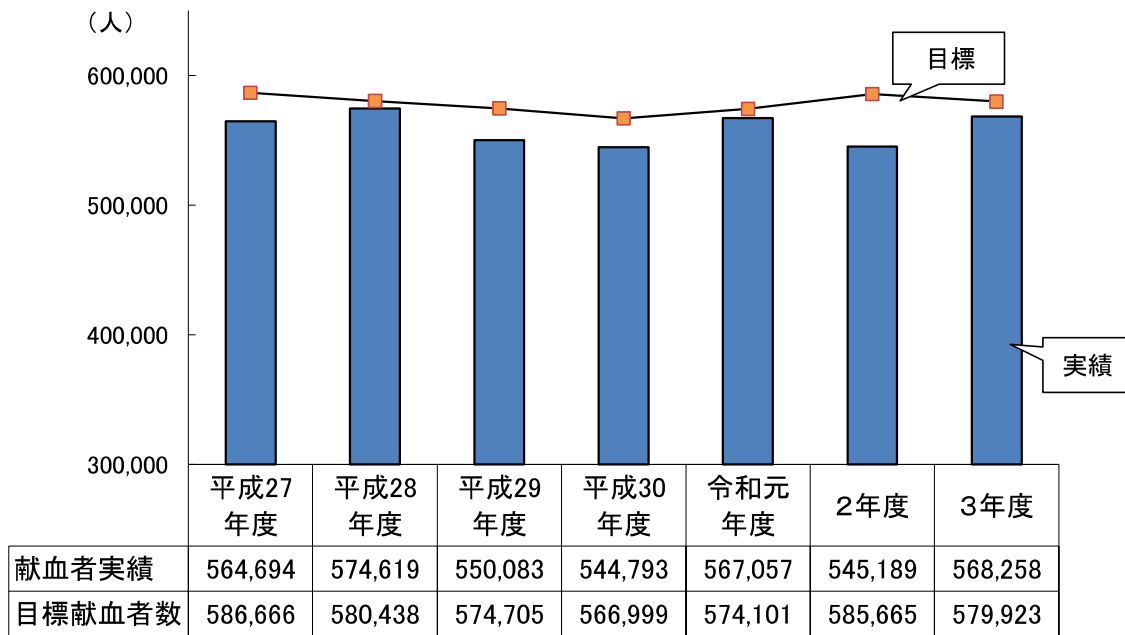
6 献血功労者への表彰

献血推進に積極的に協力、貢献した個人及び都内団体に表彰状、感謝状を贈呈

- ・厚生労働大臣表彰状（1団体）
- ・厚生労働大臣感謝状（4団体）
- ・都知事感謝状（個人3名、3団体）

都内の献血状況

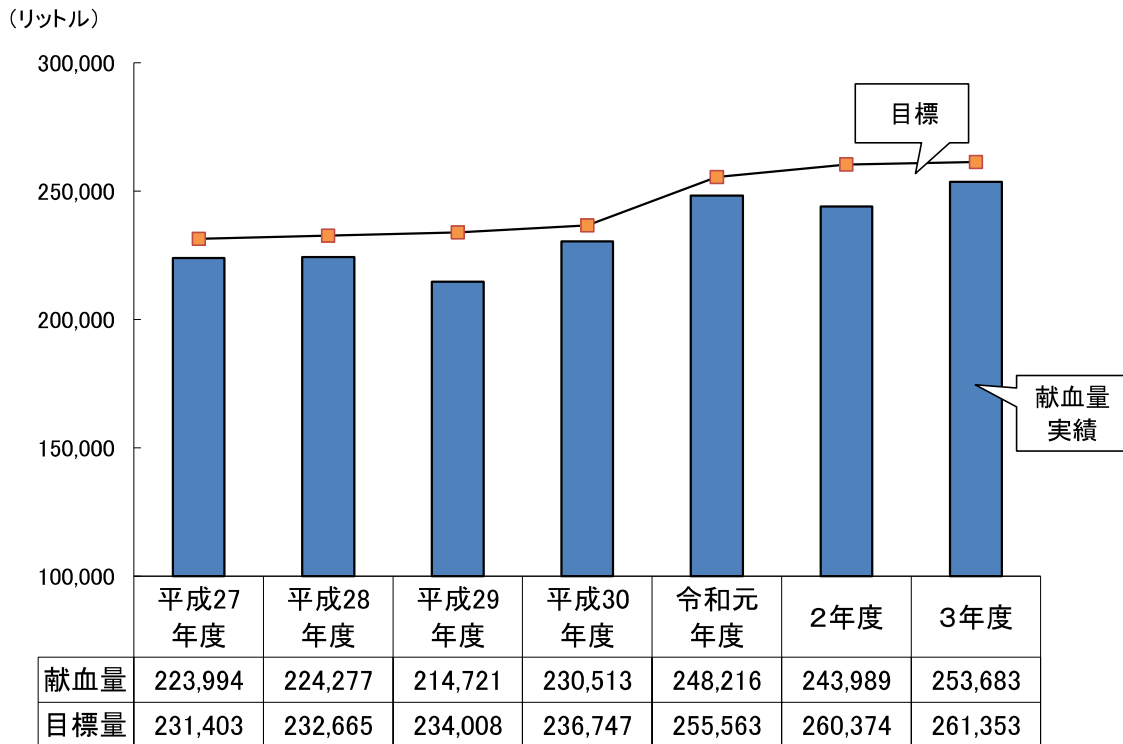
1 都内献血者数の推移



[資料: 東京都赤十字血液センター 資料年報・東京都献血推進計画]

令和3年度の献血者数は、目標の98.0%に達した。(全国の献血者数の11.2%)

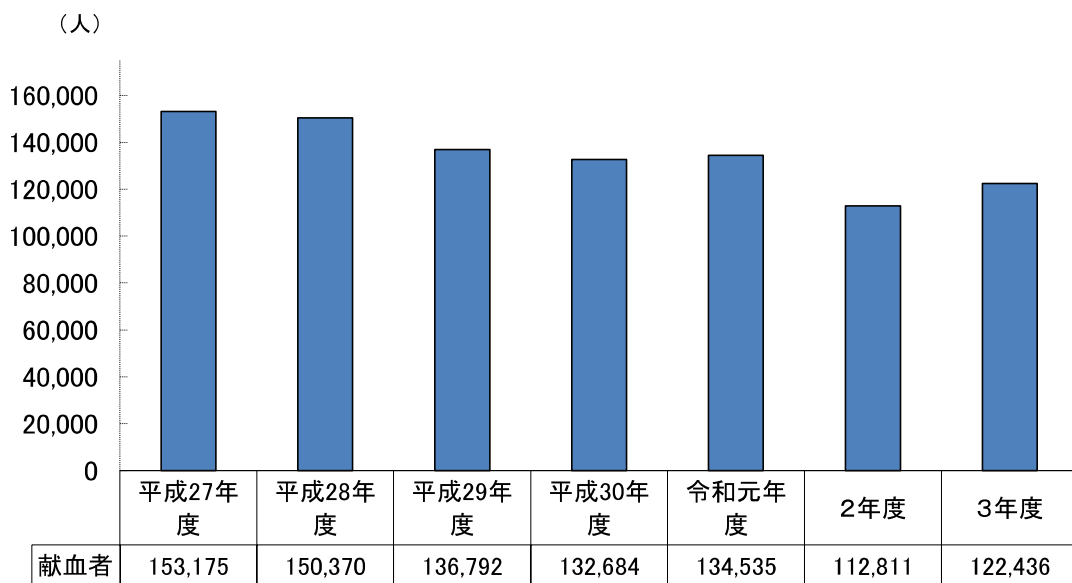
2 献血により確保した血液量



[資料: 日本赤十字社 血液事業年度報・東京都献血推進計画]

献血量は、近年は目標の90%以上で推移しており、令和3年度は97%に達した。

3 16～29歳の献血者数の推移



[資料:東京都赤十字血液センター 資料年報]

令和3年度の16～29歳の献血者数は、令和2年度からは増加したものの、依然として少ない傾向にある。

【参考】献血推進に係る新たな中期目標「献血推進2025」(厚生労働省)

若年層の献血率の推移(東京都)及び目標値

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R7年度目標値
10代	5.5%	6.6%	6.2%	6.4%	6.2%	3.7%	4.9%	6.6%
20代	7.6%	7.4%	6.6%	6.2%	6.2%	5.5%	5.8%	6.8%
30代	5.6%	5.6%	5.3%	5.1%	5.3%	5.3%	5.3%	6.6%

実績:日本赤十字社 血液事業年度報より

令和4年度第3回 インターネット都政モニターアンケート

「歯と口の健康」と「献血への意識」について

調査結果



調査実施の概要

1 アンケートテーマ

「歯と口の健康」と「献血への意識」について

2 アンケート目的

① 歯と口の健康

東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」が令和5年に期間終了を迎えるため、目標の達成状況の把握と新たな計画の検討等の参考とする。

② 献血への意識

都民の献血への意識を把握し、今後の広報・献血動員施策展開の参考と、令和5年度東京都献血推進計画の基礎資料とする。

3 アンケート期間

令和4年9月7日（水曜日）から9月13日（火曜日）まで

4 アンケート方法

インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページから回答を入力する。

5 インターネット都政モニター数

500人

6 回答者数

492人（「献血への意識」は491人）

7 回答率

98.4%（「献血への意識」は98.2%）

※ 「歯と口の健康」についての調査結果は割愛しています。

■ 献血への意識

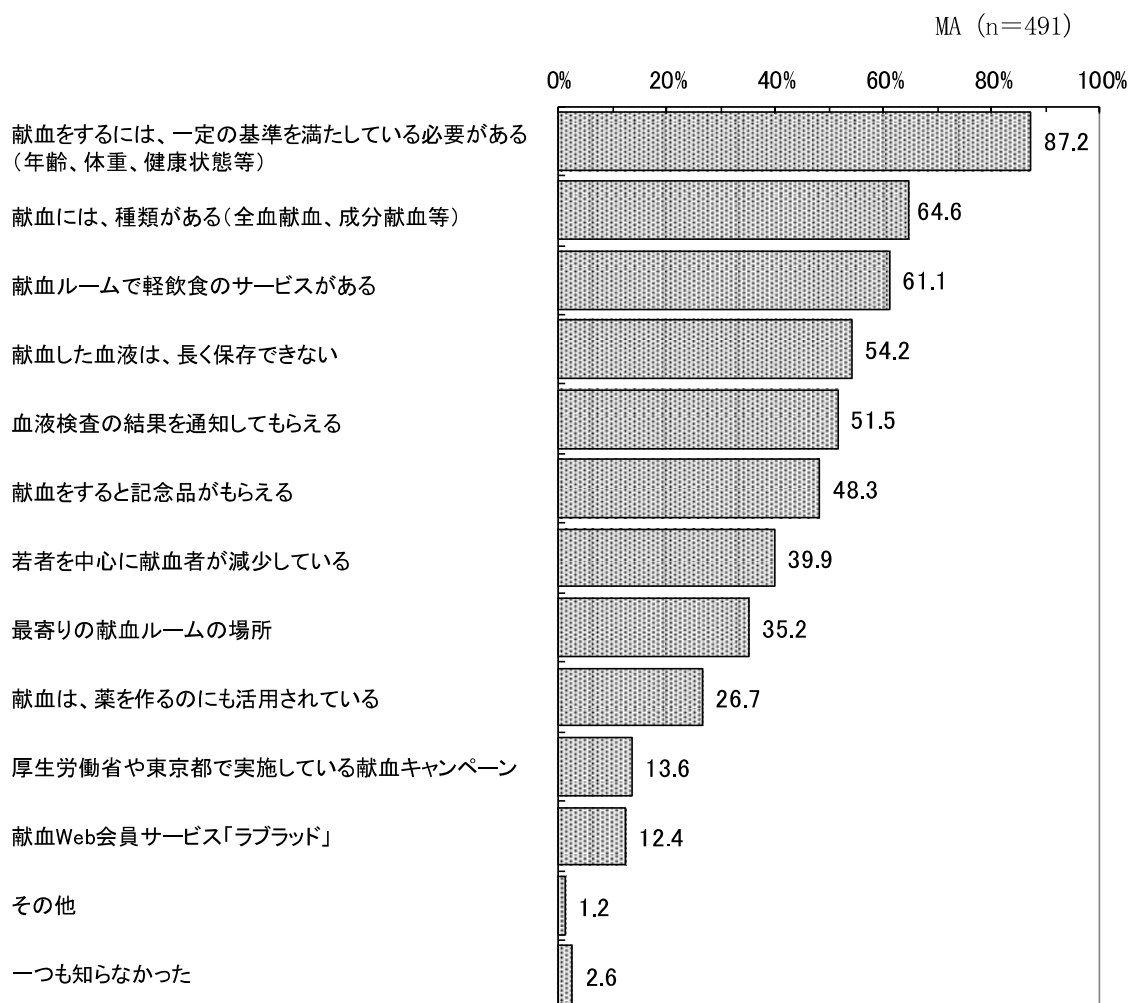
血液は、人工的に造ることも長期間保存することもできません。病気やけがの治療に使われる輸血用血液製剤を安定的に供給するためには、献血への継続的な協力が必要です。

東京都では、献血への理解と継続的な協力を求めるため、ポスター配布や街頭ビジョン・電車内での動画放映等により、献血に関する広報・普及啓発活動を行ってきました。

今回のアンケート調査では、今後の献血の普及啓発推進の参考とするため、献血への意識について、都政モニターの皆様にご意見を伺います。

献血について知っていること

Q16 あなたが献血について知っていることは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。



【調査結果の概要】

献血について知っていることは何か聞いたところ、「献血をするには、一定の基準を満たしている必要がある（年齢、体重、健康状態等）」（87.2%）が9割近くで最も高く、以下、「献血には、種類がある（全血献血、成分献血等）」（64.6%）、「献血ルームで軽飲食のサービスがある」（61.1%）などと続いている。

【参考】献血の基準（東京都赤十字血液センター）

https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/tokyo/donation/m2_01_02_index2.html

【参考】献血Web会員サービス「ラブラッド」（日本赤十字社）

継続的に献血にご協力いただける方をサポートするWebサービス。
会員になると、献血会場のWeb予約や献血記録の確認等が可能。

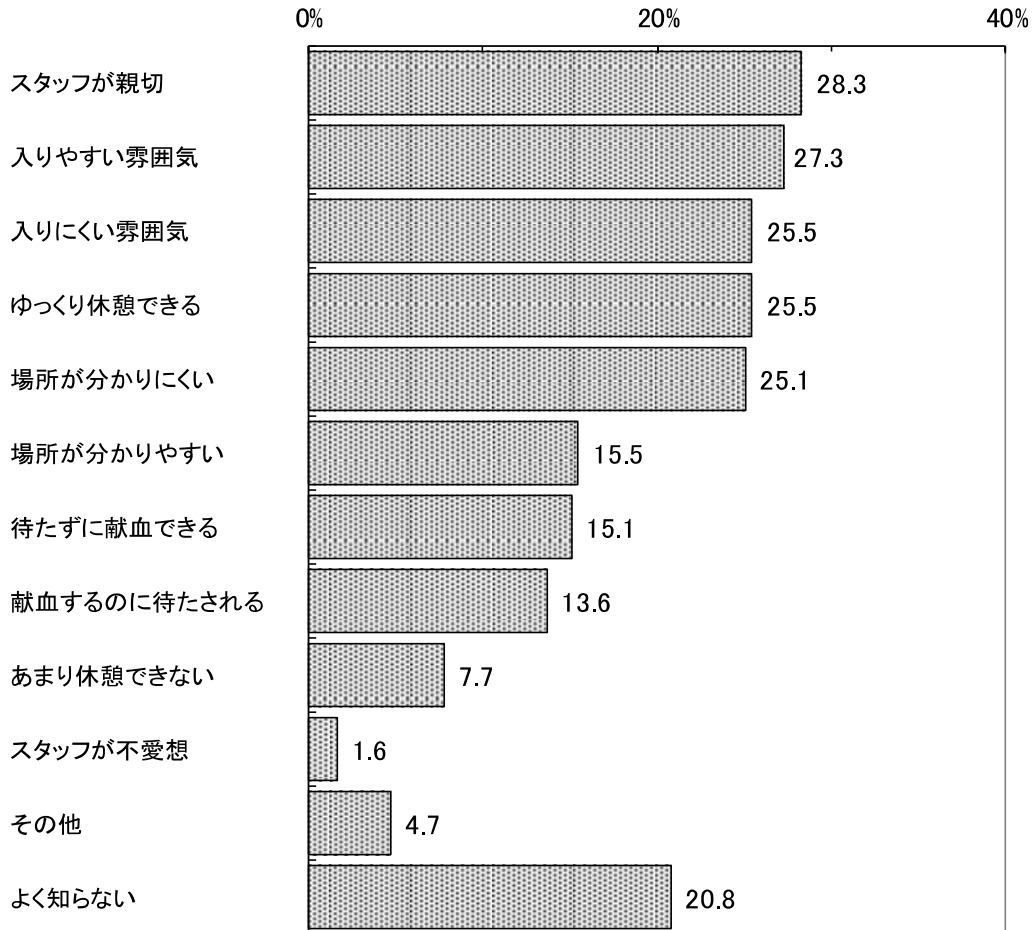
<https://www.jrc.or.jp/donation/club/>

献血ルームのイメージ

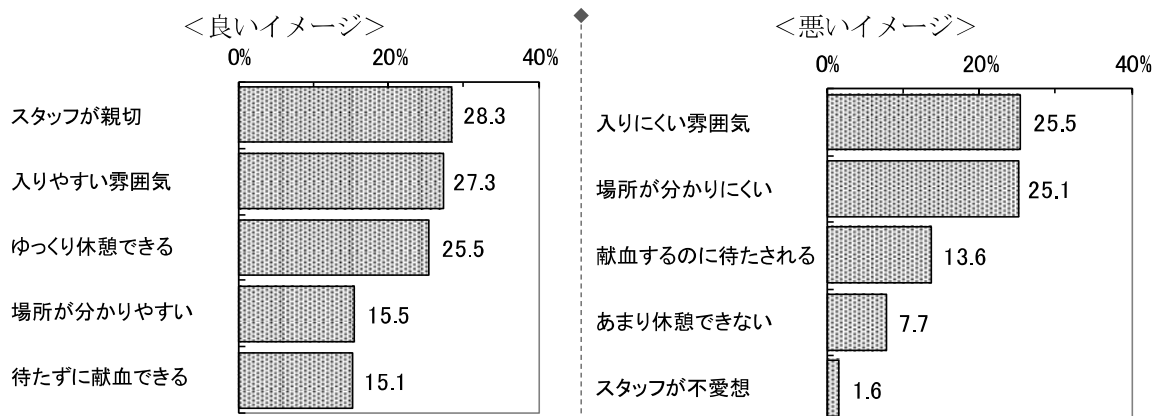
Q17 あなたは献血ルームについて、どのようなイメージを持っていますか。次の中からいくつでも選んでください。

※献血ルーム：都内12か所にある、常設の献血施設

MA (n=491)



◎ (参考) 評価イメージ別集計



【調査結果の概要】

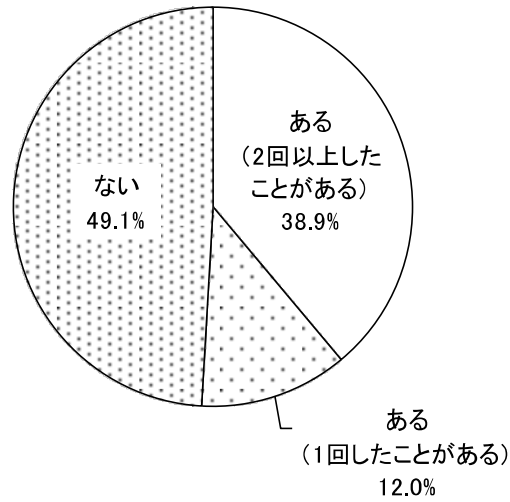
献血ルームのイメージについて聞いたところ、「スタッフが親切」(28.3%)が3割近くで最も高く、以下、「入りやすい雰囲気」(27.3%)、「入りにくい雰囲気」「ゆっくり休憩できる」(同25.5%)などと続いている。

なお、「よく知らない」(20.8%)は約2割であった。

献血の経験

Q18 あなたは、献血をしたことがありますか。

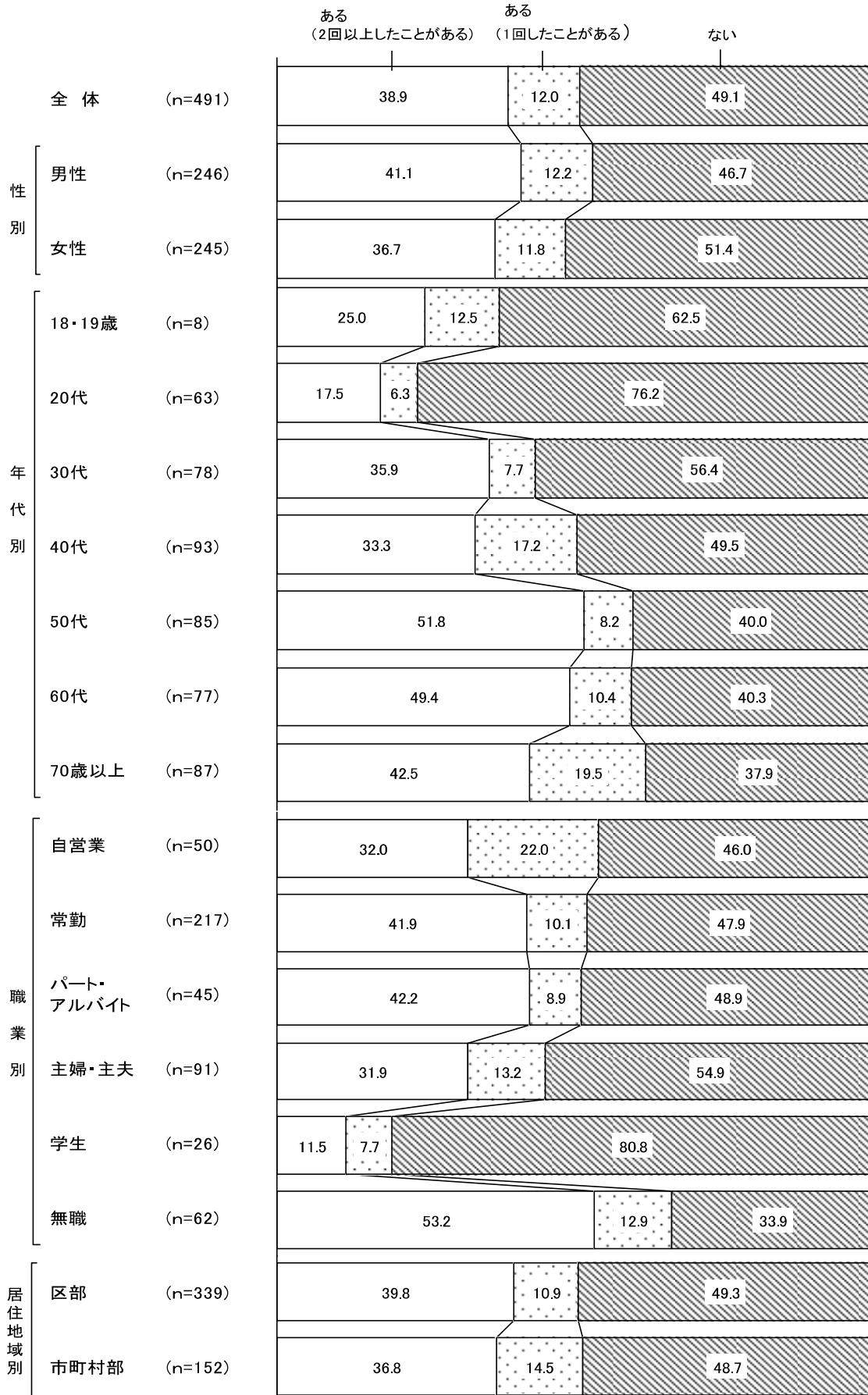
(n=491)



【調査結果の概要】

献血の経験について聞いたところ、『ある』(50.9%) (「ある (2回以上したことがある)」(38.9%)、「ある (1回したことがある)」(12.0%)) が約5割で、「ない」(49.1%) も約5割であった。

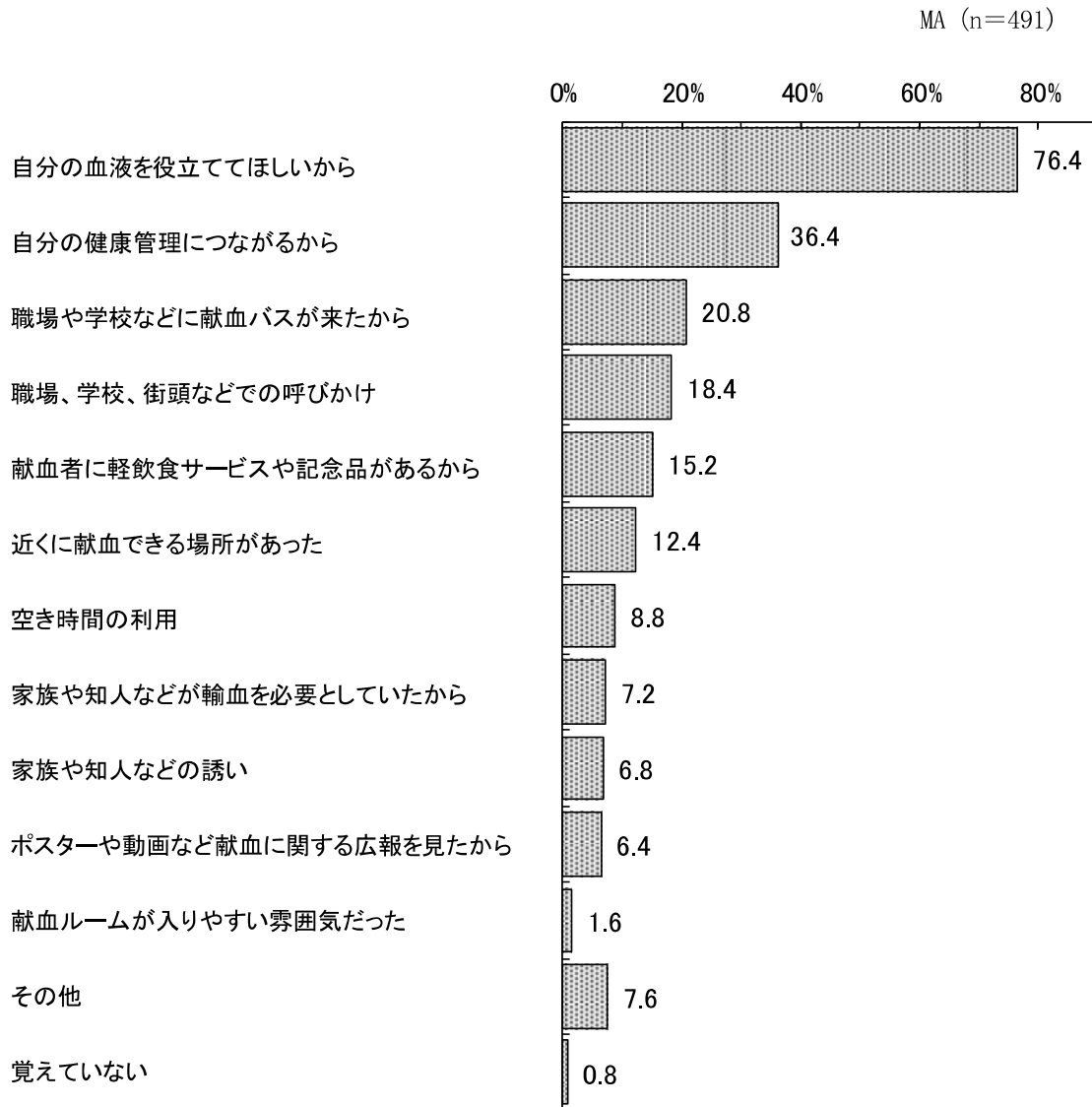
◎献血の経験（属性別）



献血をしたきっかけ

Q19 Q18で「ある（2回以上したことがある）」、「ある（1回したことがある）」を選択した方に伺います。

あなたが献血をしようと思ったきっかけは何ですか。次の中から3つまで選んでください。



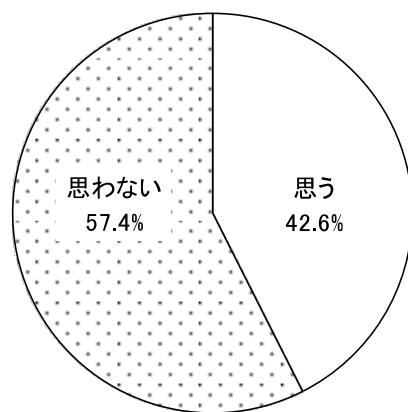
【調査結果の概要】

Q18で「ある（2回以上したことがある）」、「ある（1回したことがある）」を選択した方に、献血をしたきっかけについて聞いたところ、「自分の血液を役立ててほしいから」（76.4%）が7割半ばで最も高く、以下、「自分の健康管理につながるから」（36.4%）、「職場の学校などに献血バスが来たから」（20.8%）などと続いている。

今後の献血の意向

Q20 あなたは今後、献血をしようと思いますか。

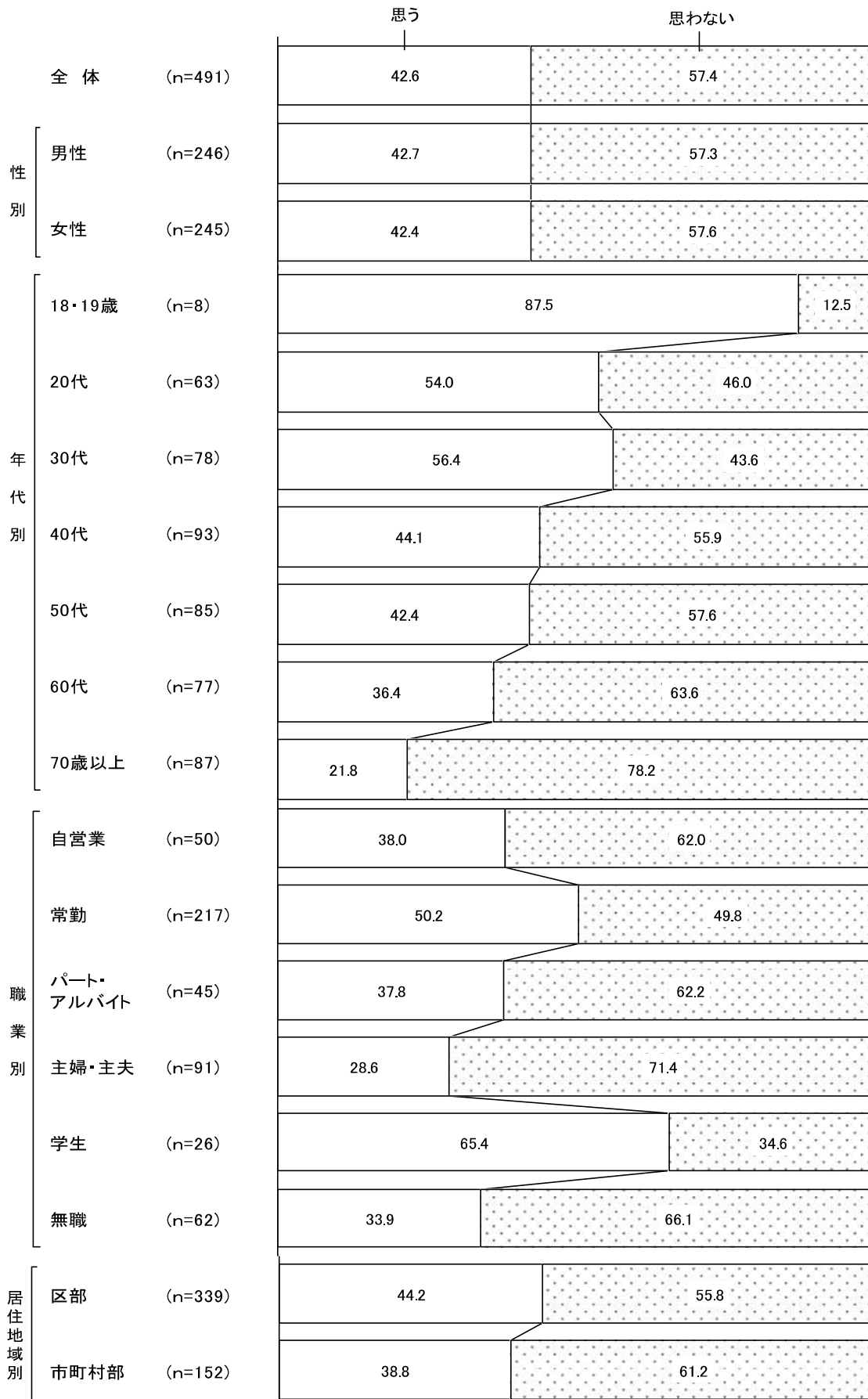
(n=491)



【調査結果の概要】

今後、献血をしようと思うか聞いたところ、「思う」(42.6%)が4割超で、「思わない」(57.4%)も6割近くであった。

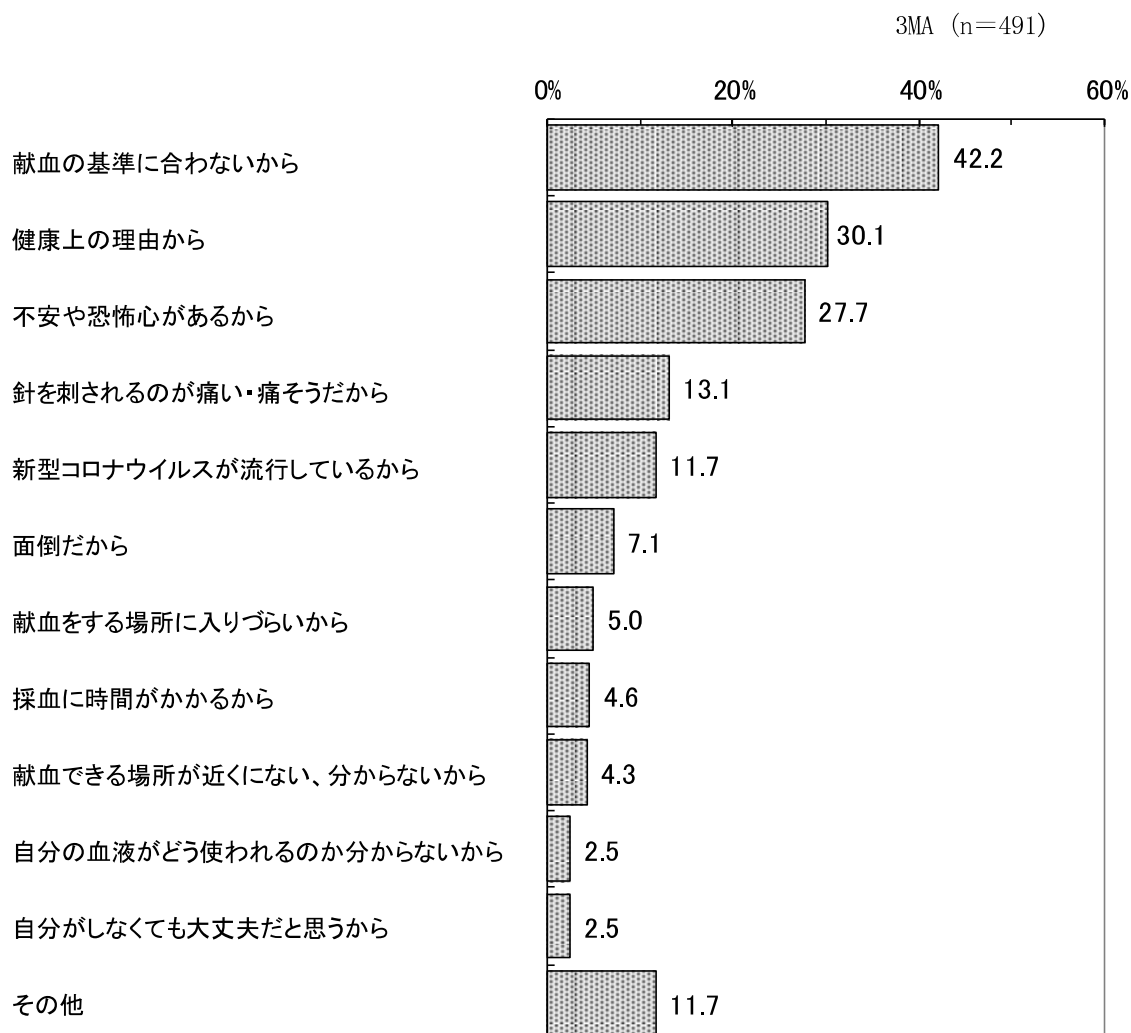
◎今後の献血の意向（属性別）



献血をしようと思わない理由

Q21 Q20 で「思わない」を選択した方に伺います。

あなたが献血をしようと思わない理由は何ですか。次の中から 3 つまで選んでください。



【調査結果の概要】

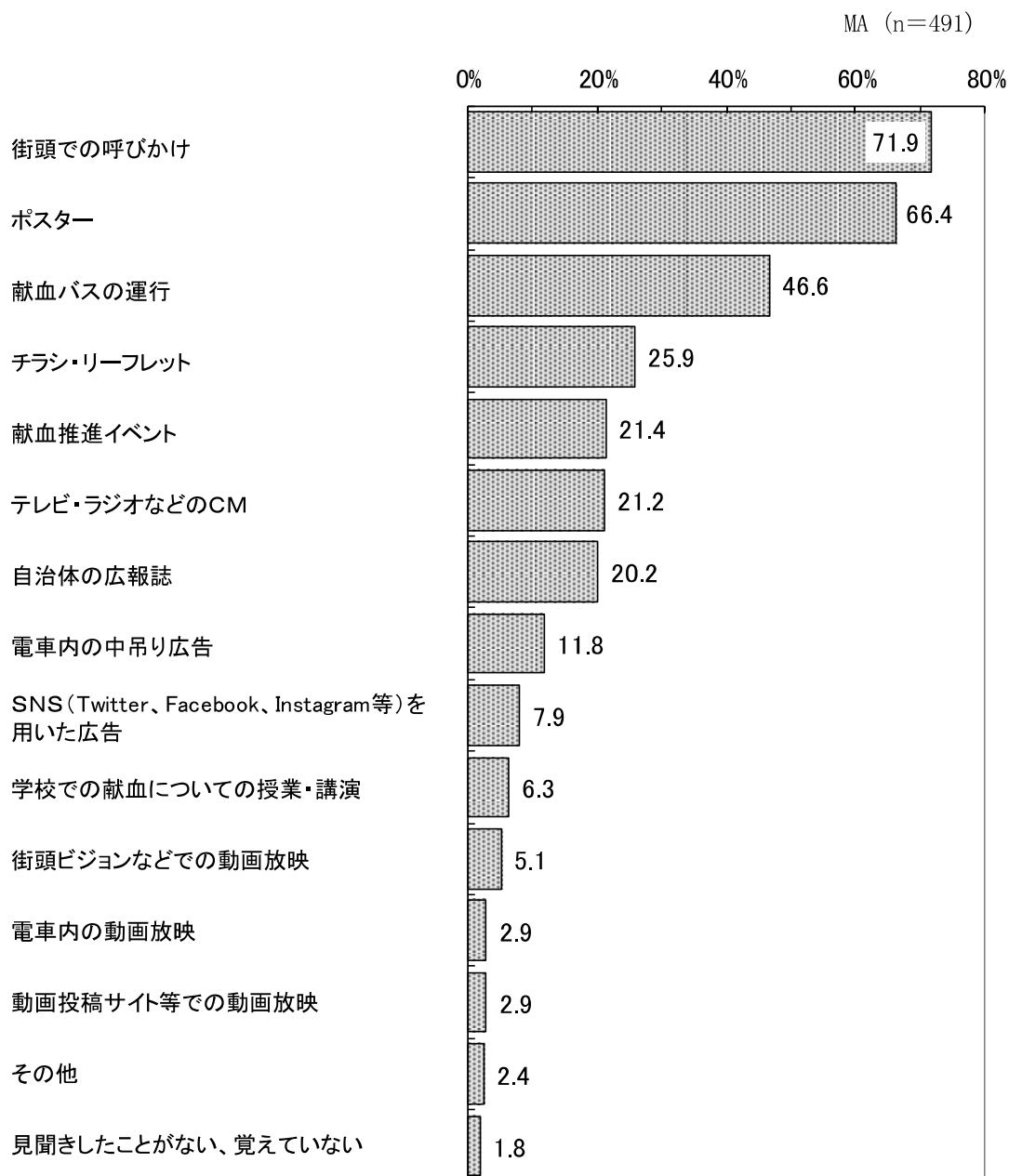
Q20 で「思わない」を選択した方に、献血をしようと思わない理由について聞いたところ、「献血の基準に合わないから」(42.2%) が4割を超えて最も高く、以下、「健康上の理由から」(30.1%)、「不安や恐怖心があるから」(27.7%) などと続いている。

◎ その他の主な意見

- ・ 病歴により献血できないから
- ・ 衛生面が気になるから

知っている献血の広報・普及啓発活動

Q22 あなたが見たり聞いたりしたことがある献血の広報・普及啓発活動は何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

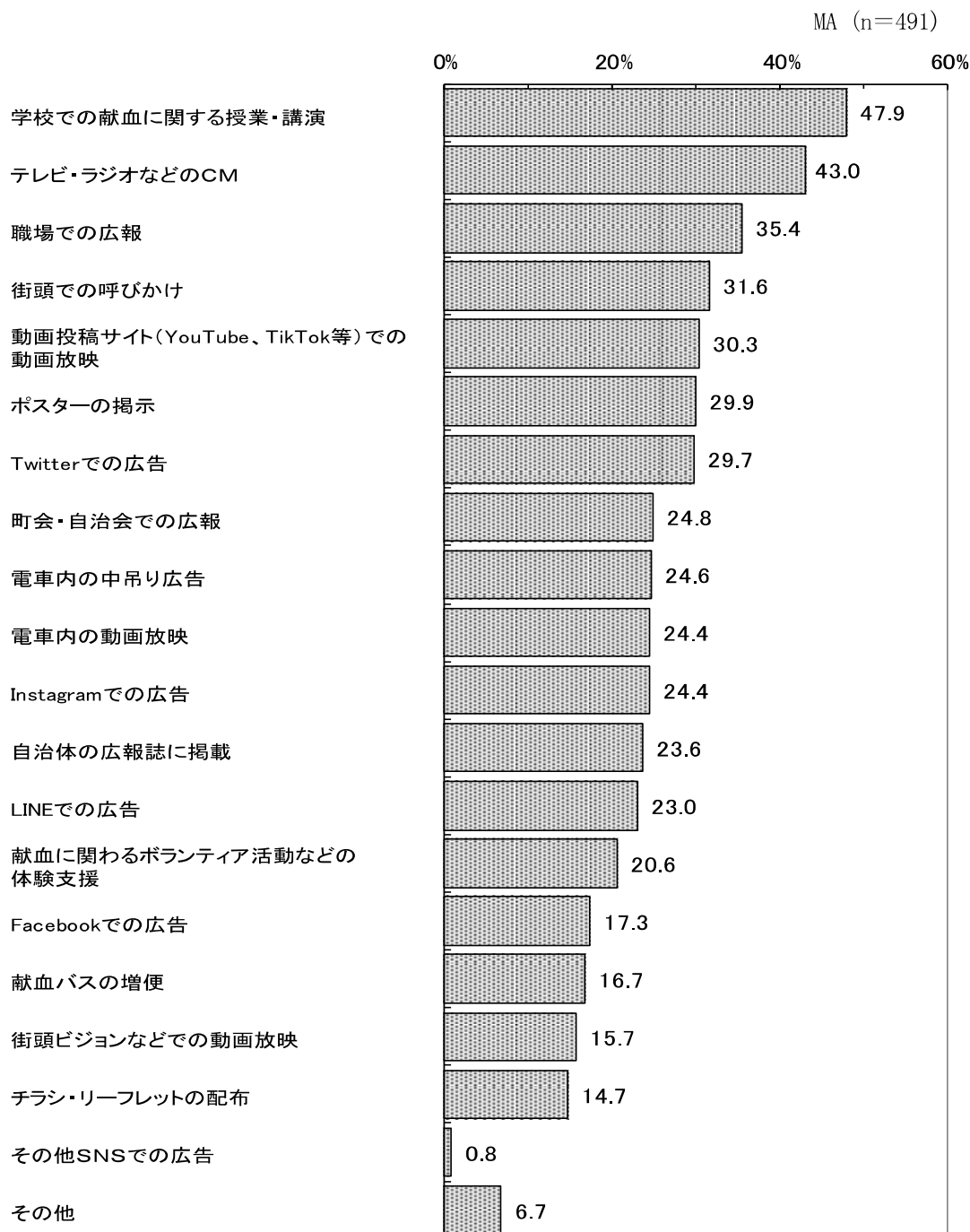


【調査結果の概要】

知っている献血の広報・普及啓発活動について聞いたところ、「街頭での呼びかけ」(71.9%)が7割を超えて最も高く、以下、「ポスター」(66.4%)、「献血バスの運行」(46.6%)などと続いている。

献血の広報・普及啓発活動として効果的と思うもの

Q23 あなたは、より多くの方が献血をするためには、どのような広報・普及啓発活動が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。



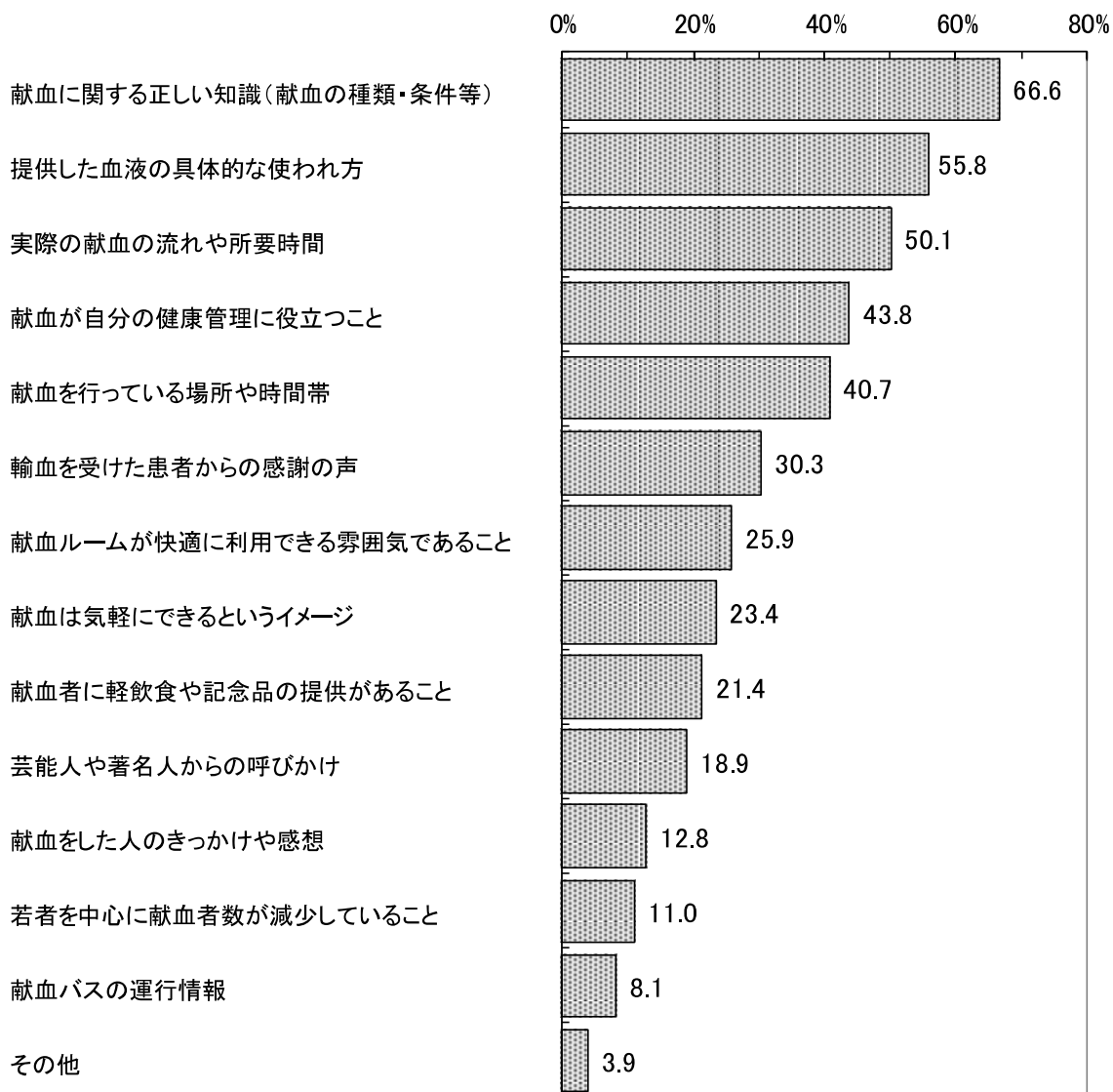
【調査結果の概要】

献血の広報・普及啓発活動として効果的と思うものについて聞いたところ、「学校での献血に関する授業・講演」(47.9%)が5割近くで最も高く、以下、「テレビ・ラジオなどのCM」(43.0%)、「職場での広報」(35.4%)などと続いている。

献血者を増やすために発信すべき情報

Q24 あなたは、より多くの方が献血をしようと思うためには、どのような情報を発信することが効果的だと思いますか。次の中から5つまで選んでください。

5MA (n=491)



【調査結果の概要】

献血者を増やすために発信すべき情報について聞いたところ、「献血に関する正しい知識(献血の種類・条件等)」(66.6%)が6割半ばで最も高く、以下、「提供した血液の具体的な使われ方」(55.8%)、「実際の献血の流れや所要時間」(50.1%)などと続いている。

献血についての要望・意見（自由意見）

Q25 献血の広報・普及啓発活動や献血全般について、あなたの意見を自由にお書きください。

(n=472)

- | | |
|----------------------|-------|
| (1) 広報、発信する情報に関すること | 188 件 |
| (2) 献血普及の取組、啓発に関すること | 148 件 |
| (3) 献血の印象・経験に関すること | 61 件 |
| (4) 献血への意向に関すること | 34 件 |
| (5) 献血への不安に関すること | 28 件 |
| (6) 献血の基準に関すること | 13 件 |

(主なご意見)

(1) 広報、発信する情報に関すること 188 件

- 輸血を必要としている人が毎日どれほどいて、どれだけの血液が足りないのかを発信すべき。これを知らない人が多すぎる。私は、1回の献血で5人が助かると聞いて、自分がやらねばと献血の必要性を感じた。手ぶらで、思いついたらできるのが献血の良いところだと思う。著名人、YouTuberによる自発的な啓発活動が望ましいが、現実はそうはならないので、東京都とともに「献血行ってみた」などを企画してほしい。
(女性 10代 中野区)
- 献血に対する見返り（記念品）で動機付けを行うことももちろん大切と思いますが、私は、献血が具体的にどのように役立っていて、意義があるのかを中心に広報した方がよいと思います。
(男性 20代 練馬区)
- 重要だと分かっているものの、どうしても億劫だと感じてしまうため、手軽さや重要性をアピールしていくことが効果的だと思う。
(男性 20代 八王子市)
- 献血された人、回復した人の声をテレビCMで聴き、献血の大切さを再認識しました。普段、テレビを観ることが多いので、テレビで詳しく教えてくれるといいなと思います。
(女性 30代 文京区)
- 若者の献血離れは意識していませんでした。役に立つことを身近に感じられれば、参加される方が増えるのではないかと思います。寄附やボランティア等と同じように、誰かの助けになることが分かるような発信もしてみてもいいと思います。
(女性 30代 杉並区)
- 元気な若者に献血してもらうためには、紙媒体やテレビよりも、ツイッターやインスタグラムを利用して広めてほしい。
(女性 40代 中央区)

- 私は出産時に大量出血をしました。当時大学病院内にある輸血をほぼ使っていました。感謝の気持ち一杯で、自分も献血したいと思いました。
しかし、一度輸血を受けると献血ができないことを知りました。もっと若いときに献血するタイミングはいくらでもあったのにと後悔しました。いつでもできる訳ではないという情報も正しく広く周知してほしいと思います。
(女性 40代 目黒区)
- 献血することによって、どれくらいの患者が助かっているのか、年間の数値データを自治体の広報紙などで詳しく知らせてほしい。どれくらい不足しているのか切実であれば、ニュースなどで特集を組んでもらい、現状報告や課題などを取り上げてもらいたいと思う。
(男性 60代 小金井市)
- 私自身は高齢のため献血はできませんが、自分のためにも、他人のためにもよいことなのだとPRするのがよいと思います。
(男性 70歳以上 杉並区)
- 献血について、高齢者は何かの役に立っていると漠然と思うが、若い人たちは達成感や貢献度を欲していると思います。献血をされた方の感謝の言葉を、どこかで何らかの言葉を添えて案内するのいいと思います。
広報は、献血してほしい年代を考慮して案内されるのがいいと思います。今回は20代から40代、次回は40代から60代のように、絞って広報する。今までにやってこなかった方法を一度考えるのもいいのではないのでしょうか。
(男性 70歳以上 大田区)

(2) 献血普及の取組、啓発に関すること 148件

- 大学の体育会等、献血が可能かつ集団行動している人々が多い環境にアプローチするのいいのではないのでしょうか。一つの社会貢献としての認識が広まりやすく、その集団内の文化としても定着しやすい印象を持ちます。気軽に献血ができ、献血をする側にとってメリットがあると伝えられるのいいと思います。
(女性 20代 府中市)
- 献血を広めるためには積極的な広報活動が必要だとは感じるが、現状、土日の予約無しで行う献血は、非常に時間がかかる。普及活動以前に、現状の問題点を改善していただきたい。
(男性 30代 中央区)
- 夜間も献血できれば、仕事帰りにできるのでいいと思う。
(女性 30代 新宿区)

- 駅前によく献血車が停まっていますが、駅は忙しい人ばかりでなかなか立ち止まる方はいないと感じます。ショッピングモールなどの広場なら、時間のある方も多いでしょうし、そのモールのクーポンを粗品にするのもありだと思います。血液サラサラ診断とか、献血する側のメリットを垂れ幕などにして、もっと押し出していいと思います。献血は、輸血用という用途しか知らない人が多いかもしれません。
(女性 40代 墨田区)
- 自分は献血に行きたいと思っていますが、脚に障害を持っていて献血の場所まで行けないので、なるべくバリアフリーに対応した献血場所を設けてくださると助かります。検討をお願いします。
(男性 40代 昭島市)
- 献血ルームのような、いつでも献血ができるスポットがもっと増えるといいと思う。同時に、小さい頃から（小学校程度から）、「献血は必要」と知らせる授業を繰り返し行うといいと思う。
(女性 50代 三鷹市)
- 献血した血は、冷凍保存などで長く保存できるのかと思っていた。正しい知識と普及拡大はイコールかもしれない。銀行や郵便局、スーパー、市区役所に献血コーナーが隣接していれば、「ついでに献血」がしやすそう。
(女性 50代 稲城市)
- きっかけがないとなかなか始められないと思うので、献血できる年齢である高校生などを対象に、学校での説明会のようなものを開催したらよいと思う。一度経験すれば、気軽にその後も継続できると思う。
(女性 60代 江東区)
- 新型コロナの流行もあり、街頭での献血呼びかけは難しいかと思います。学校や職場での普及啓発活動に重点を置く方が、効果は高いと感じます。例えば、企業では、様々な認証（例えば環境関連）を受けていますが、献血に前向きに協力する組織に認証を与える方法はいかがでしょうか。法制度の改定等があるかもしれませんが。
(男性 60代 東村山市)

(3) 献血の印象・経験に関すること 61件

- 献血で貢献することがあるということを、なかなか実感できない。
(男性 30代 品川区)

- 自分はないのですが、知人が「せっかく行ったのに断られた」と言っていました。仕方ないと思いつつ、こういった体験が遠ざける原因になると思います。自分も稀にスタッフさんの対応を疑問に思うことがあります(補足ですが、大半はとても良い方です)。とても小さなことですが、特に初めての方などは「自分の血を提供する」という、いわば恐怖を越えてボランティア精神で来ているのに、こういった些細なことで「もう二度と献血しない」「そもそも献血しない(する必要がない)」などの気持ちになると思いました。
若い方の献血が減っているというのは、こういった小さなことの積み重ねだと思いました。もう少し安心感を与えることを地道に続けていかないと、なかなか難しいのではないかと思います。
(男性 40代 江東区)

- 初めて献血したのは学生の頃で、時間にゆとりがあり、自分の血液について知りたいと思ったからでした。その後、自分が手術したとき、お産のときに輸血のお世話になり、とても感謝しています。
時間があって健康な若い方をお願いしたいので、学生街などで定期的に行うといいと思います。献血してくださる方にもメリットがあることをもっとアピールすると思います。
(女性 60代 国立市)

- 献血は、約70回して、年齢制限で卒業したが、社会に貢献できたことがうれしかった。献血した人の声、もらった人の声をもっと広く伝えて、献血の意義や充実感を伝えてはどうだろうか。
(女性 70歳以上 新宿区)

(4) 献血への意向に関すること 34件

- 今後、なるべく献血に協力したい。
(女性 10代 荒川区)

- よくCMなどで見たり聞いたりしたものの、いざ行こうと思っても場所が入りづらかったり、近寄りがたい雰囲気があったため、行けなかった。今年中に1回経験しておこうと思う。
(女性 20代 北区)

- 献血が好きなので、できる限り協力したいですが、予約が埋まっていることが多く、献血できないことが多々あります。
(女性 40代 多摩市)

(5) 献血への不安に関すること 28件

- 周りと話すと、怖い・痛そうという意見が多かった。そこを解消できるといいのではないかと思う。
(男性 10代 江東区)
- 一番は献血する場所が安心であり、採血方法も安心であることをアピールしてほしい。そこに恐怖心があり、逆に病気になるのでは、とってしまう。
(男性 20代 葛飾区)
- 過去に検査採血をした際に貧血を起こしてしまったことがあり、その不安から、献血をすることに対して抵抗がある。そのような経験を持つ人たちの不安を解消するような広報もしていただけたらいいのではないだろうか。
(男性 60代 江東区)

(6) 献血の基準に関すること 13件

- 献血の条件に該当しないと思っている人が案外多いと思う。もっと献血条件の周知をあらゆる年代に広報した方がいいと思う。
(男性 30代 武蔵野市)
- 献血は、自分自身の健康上にも良いことのアピールをもう少しの方がいいと思います。
また、献血できる年齢の上限も、あまり知られていないように思います。昔と違って、今の高齢者は健康な人も多いため、年齢制限の見直しなども考えられないでしょうか。
(男性 70歳以上 町田市)